

Activate Your Life

輝け、カガクで。



決算補足説明資料

2025年12月期 通期

 日華化学株式会社

東証スタンダード:4463 | 2026年2月13日

目次

- 01** 2025年12月期通期 決算概要

- 02** 2026年12月期通期 業績・配当予想

- 03** 新中期経営計画

- 04** Appendix

01

2025年12月期 通期
決算概要

売上高・営業利益ともに過去最高 経常利益は為替の影響で、当期純利益は税金費用増で減益

化学品事業

増収・増益

売上高、セグメント利益額・率ともに過去最高

- EHD※関連製品売上高比率増による利益率向上
- 主力の繊維化学品／トランプ関税の影響で稼働減速も中国中心に大手加工場高稼働
- 半導体加工用クーラント剤回復途上
- 金属加工用洗浄剤伸長

※ E(環境/Environment)、H(健康・衛生/Health)、D(デジタル、先端材料/Digital)向けの高付加価値製品

化粧品事業

増収・増益

売上高は過去最高

- ODM事業好調
- 国内美容サロン市場来店客数減の中、デミ注力商品販売堅調
- デミコリア 韓国経済不調の影響継続

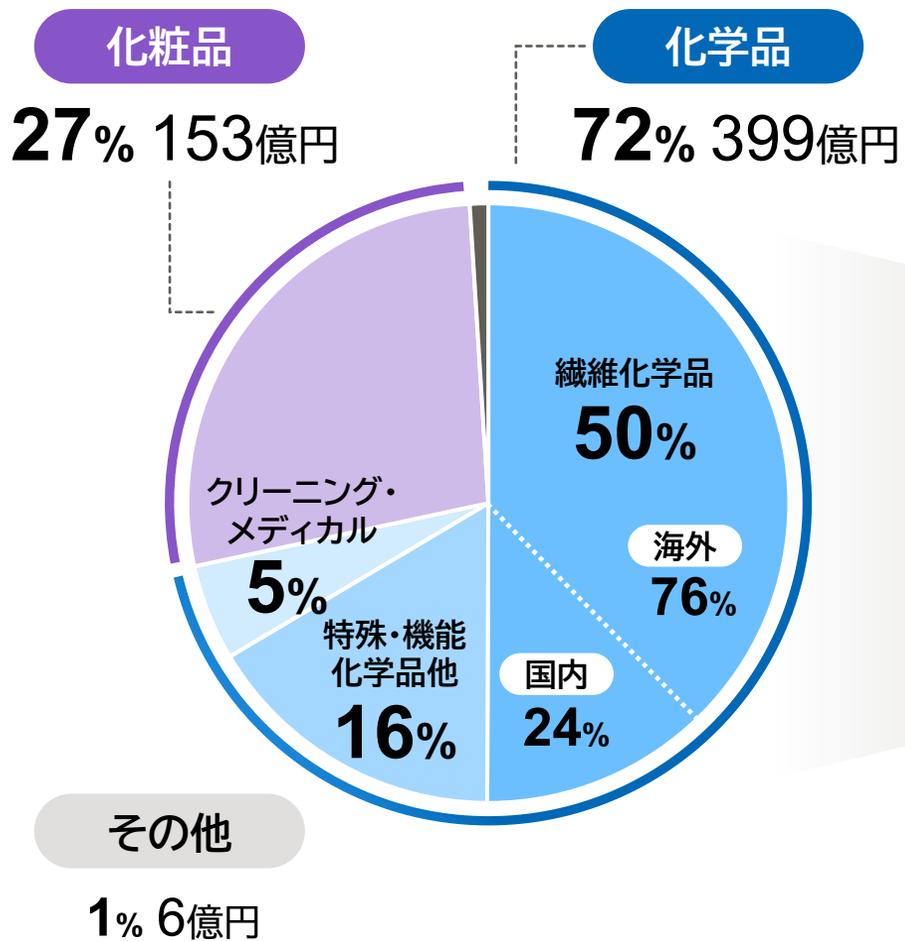
2025年12月期通期 連結決算概要

	2024年12月期 実績		2025年12月期 実績		増減額	増減率
	(百万円)	構成比	構成比	構成比		
売上高	54,099	100%	55,705	100.0%	+1,606	+3.0%
■ 化学品事業	39,378	72.8%	39,894	71.6%	+516	+1.3%
■ 化粧品事業	14,271	26.4%	15,259	27.4%	+988	+6.9%
その他	449	0.8%	550	1.0%	+101	+22.5%
営業利益 (営業利益率)	3,519 (6.5%)	-	3,847 (6.9%)	-	+327	+9.3%
■ 化学品事業(セグメント利益)	3,724	66.5%	3,948	65.8%	+224	+6.0%
■ 化粧品事業(セグメント利益)	1,822	32.5%	1,966	32.7%	+144	+7.9%
その他	58	1.0%	90	1.5%	+31	+53.9%
消去等	△2,085	-	△2,158	-	△73	-
経常利益	3,976	-	3,849	-	△126	△3.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,754	-	2,384	-	△370	△13.4%

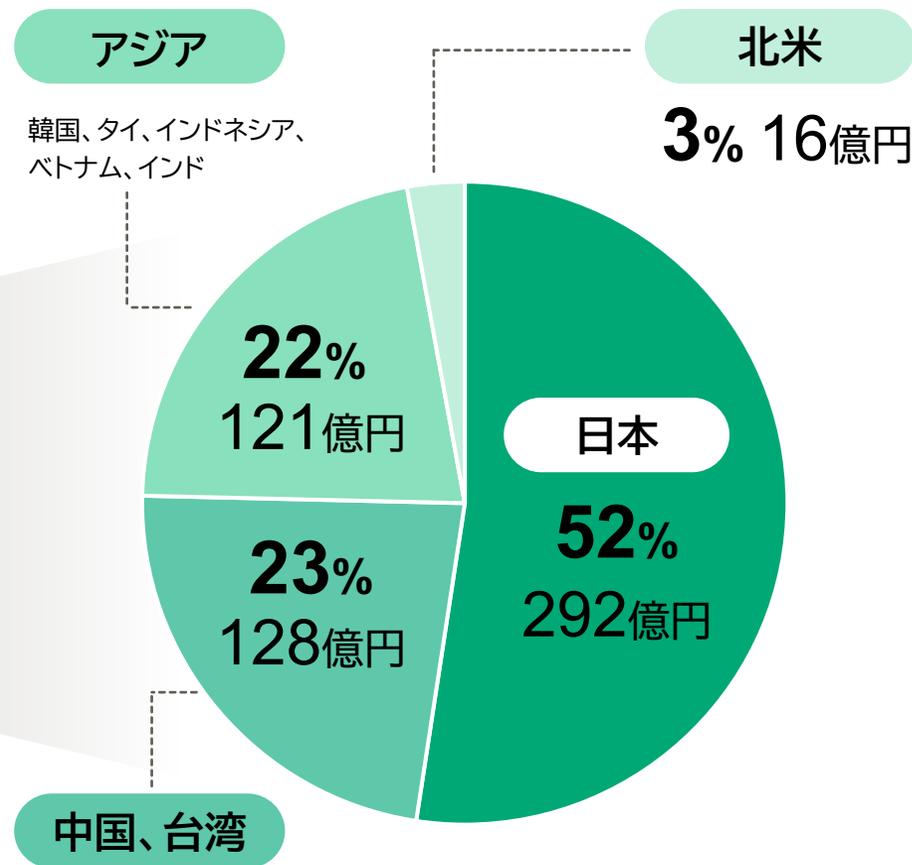
為替 ※期中平均 (カッコ内:前年同期比)	米ドル	中国元	ウォン	国産ナフサ (カッコ内:前年同期比)	1Q	2Q	3Q	4Q
	150.42円(0.7%円高)	(0.5%円高)	(5.0%円高)		73,400円(+1.2%)	66,300円(△16.2%)	63,200円(△17.8%)	65,600円(△10.4%)

事業別・所在地別 売上高比率

事業別 売上高比率



所在地別 売上高比率



2025年12月期
売上高

557億円

売上高は億円未満四捨五入
%は小数点以下四捨五入

経営指標の概要

- EBITDAは営業利益増により増加、ROA、ROICは総資産増、ROEは純利益減により減少
- PBRは株価+37%（前年同期末比）により向上

(百万円)	2024年12月期 実績	2025年12月期 実績	増減額	増減率
ROA	5.9%	5.6%	-	△0.3 pt
ROE	8.6%	6.9%	-	△1.7 pt
ROIC	5.8%	5.1%	-	△0.7 pt
PBR	0.57倍	0.74倍	-	+0.17 pt
EBITDA	5,743	5,975	+231	-
減価償却費	2,224	2,128	△95	-
年間配当(円)	52	60		

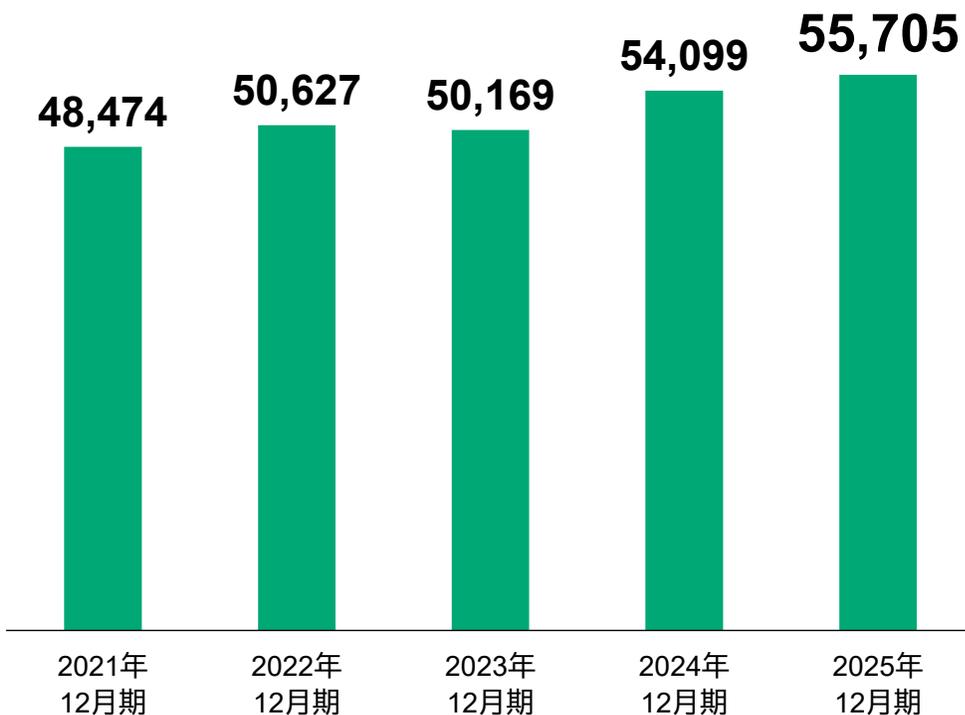
※ 2025年12月期年間配当金のうち期末配当30円については2026年3月26日開催の定時株主総会で決議予定

連結売上高・営業利益の推移

- 2期連続の増収・増益でいずれも過去最高
- 営業利益率も向上

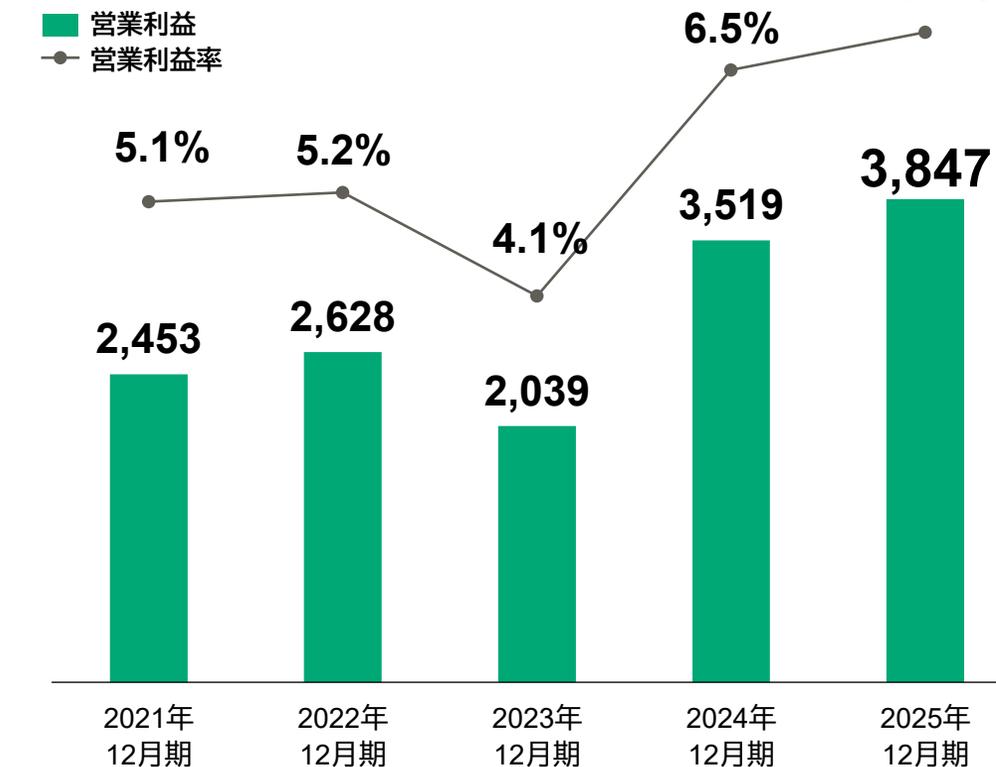
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)

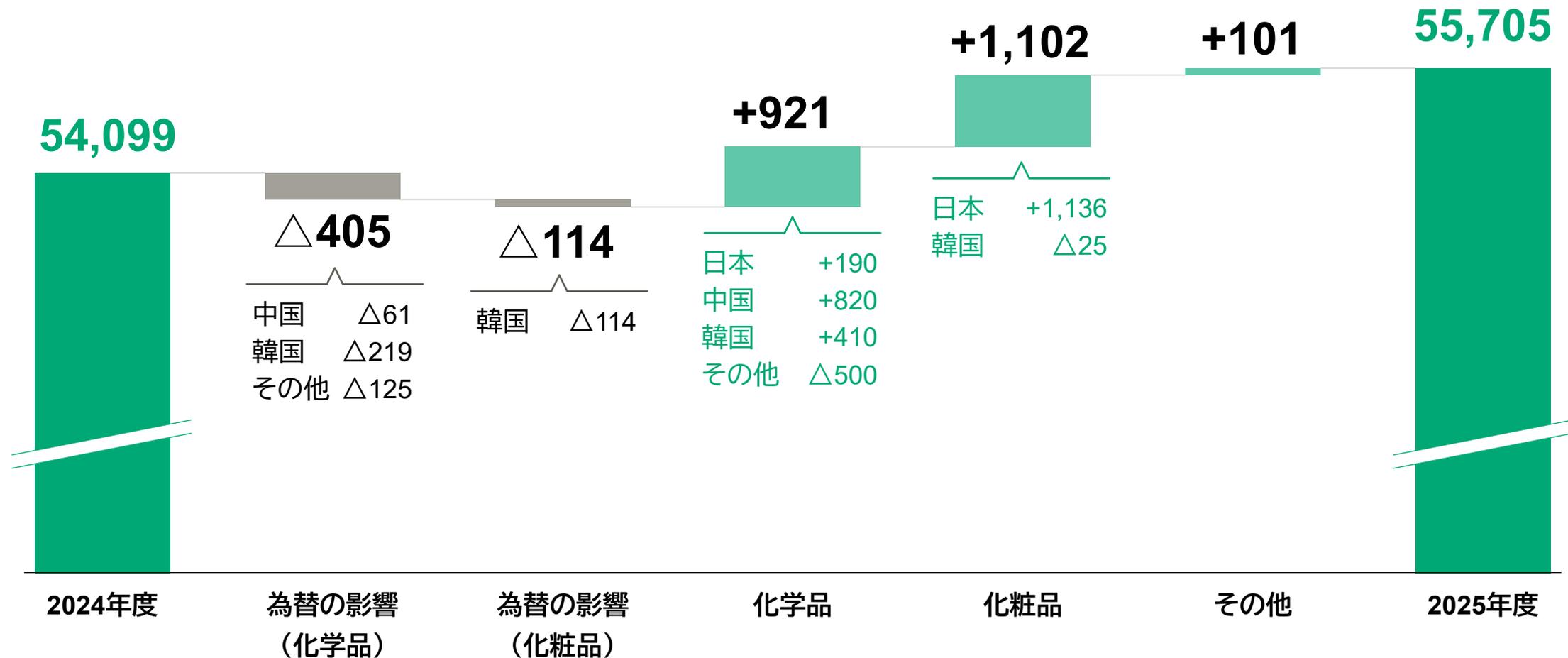


※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年12月期から適用。2021年12月期については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値。

連結売上高 増減要因

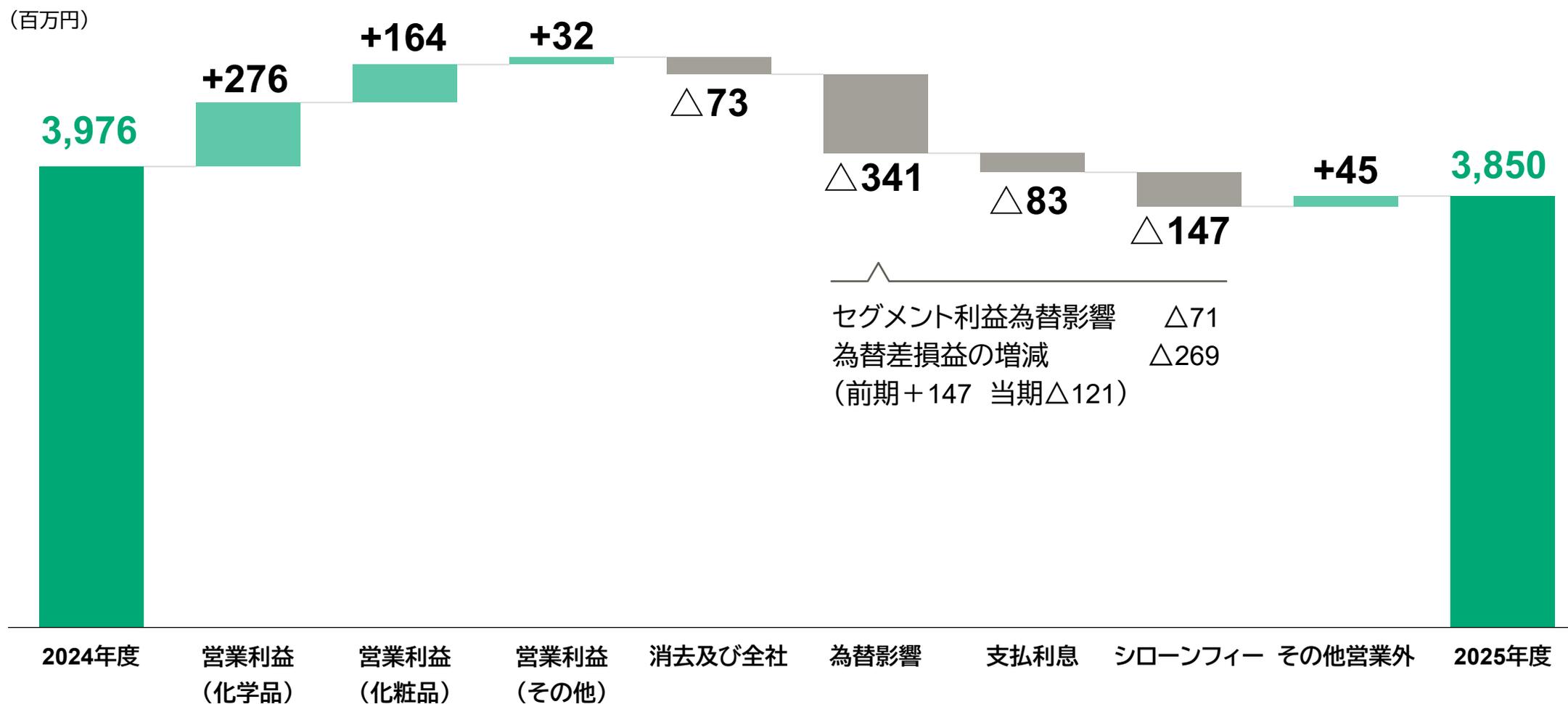
- 為替の影響: 化学品事業△4億円 化粧品事業△1億円 期中平均レート150.42円(前期151.42円)
- 化学品事業 +9.2億円増収 化粧品事業 +11億円増収

(百万円)



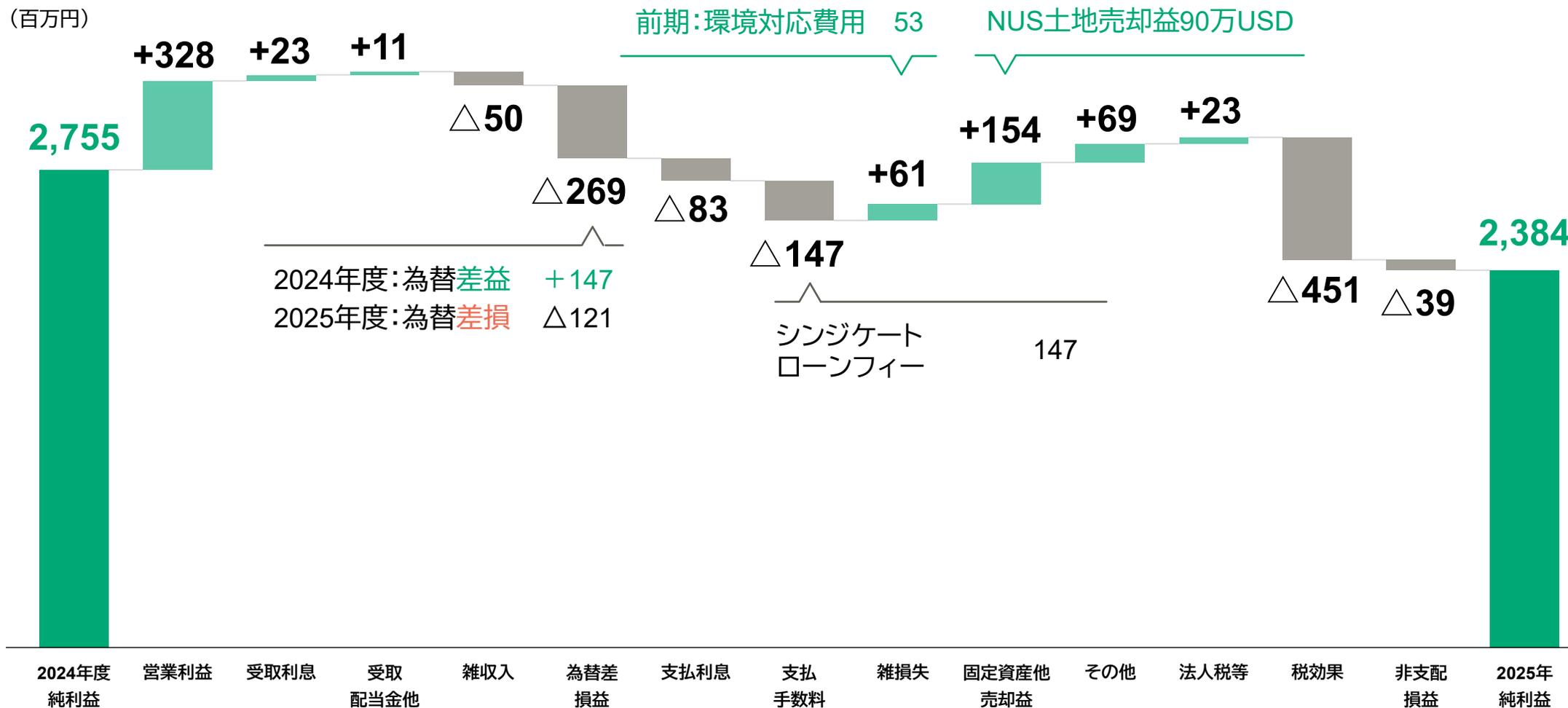
連結経常利益 増減要因

- 営業利益 化学品事業 +2.7億円 化粧品事業 +1.6億円
- 為替差損益の影響 為替期末日レート(\$) 24年12月158.17円→156.54円(1.63円の円高)



営業外損益/特別損益/税引後利益(対前年)

- 特別損益/固定資産他売却益 +1.5億円 税効果会計(繰延税金資産の取崩し) △4.5億



セグメント概要

化学品事業

- 創業以来培った繊維加工のトータルソリューション技術を幅広い市場に応用
- 2015年に大智化学産業を買収し、成長著しいデジタル分野にも展開



繊維加工用薬剤



クリーニング用薬剤



スペシャリティケミカル
(特殊化学品・機能化学品)



スペシャリティケミカル
(先端材料)

主要な 関係会社

- 大智化学産業株式会社(半導体産業向け)
- 日華化学(中国)有限公司
- NICCA KOREA CO., LTD. 他13社

化粧品事業

- 主カブランド「DEMI」を中心とした、プロフェッショナル向け美容室専売品の研究開発
- お客様の声に耳を傾け、髪健康と美しさを追究



ヘアケア



スカルプケア



ヘアカラー



スタイリング

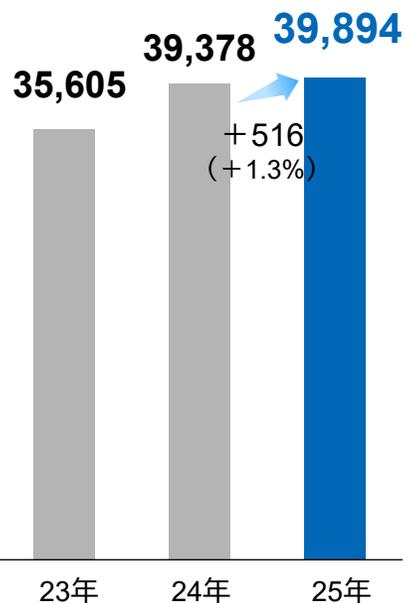
主要な 関係会社

- 山田製薬株式会社(化粧品OEM/ODM)
- イーラル株式会社
- DEMI KOREA CO., LTD. 他2社

- トランプ関税の影響を受けたが、EHD※関連製品堅調、中国・インド等伸長により、4Qのみ、累計ともに売上高・セグメント利益額・率は過去最高

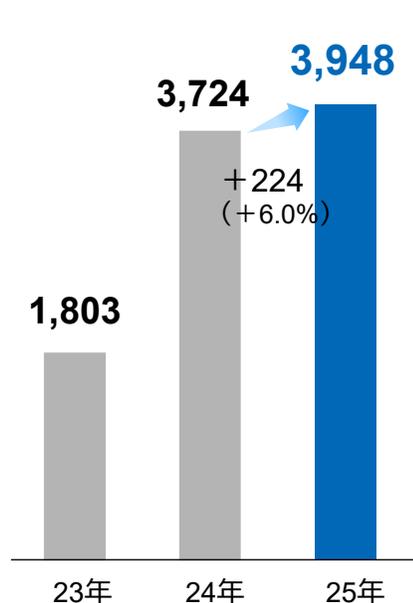
売上高

(百万円)



セグメント利益

(百万円)



為替 ※期中平均 (カッコ内:前年同期比)	米ドル	中国元	ウォン	
	150.42円 (0.7%円高)	(0.5%円高)	(5.0%円高)	
国産ナフサ (カッコ内:前年同期比)	1Q	2Q	3Q	4Q
	73,400円 (+1.2%)	66,300円 (△16.2%)	63,200円 (△17.8%)	65,600円 (△10.4%)

主な増減要因

売上高

繊維化学品分野

- + EHD※関連製品販売 引き続き好調
フッ素フリー系撥水剤、環境配慮型工程薬剤など
- + 中国中心に海外大手繊維加工場の高稼働(～4月)
- 5月～トランプ関税の影響で海外繊維加工場稼働減速も足元回復傾向
- + インドビジネス成長

電子材料関係分野

- + 半導体加工用クーラント剤回復途上(前年1Q低調)
- + グローバルで新規ビジネス増加

機能化学品分野

- + 金属加工用洗浄剤伸長

セグメント利益

- + EHD※関連製品(高付加価値品)売上高比率増
- 人件費増加

※ E(環境/Environment)、H(健康・衛生/Health)、D(デジタル、先端材料/Digital)向けの高付加価値製品

施策	進捗状況／通期
<p>成長・高収益事業への傾注</p> <ul style="list-style-type: none"> • EHDに紐づく新規ビジネス・新規エリアの獲得（EHD売上比率50%） • グループ一体となったグローバル拡販 • デジタル領域のグローバル展開と新規ビジネスの創出 	<ul style="list-style-type: none"> • EHD製品売上高比率 通期で45.1%（前年同期比+0.8pt） *EHD製品利益率／従来製品比 +11.9%〈25年12月期実績〉 • 新規ビジネス・エリア／新たな電子材料分野の取組開始、繊維加工薬剤でインド伸長 • グローバル拡販／フッ素フリー系撥水剤、環境配慮型工程薬剤 伸長継続 • デジタル領域グローバル展開／台湾、韓国中心に推進中
<p>収益性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> • 戦略的調達によるコストダウン（中国、インド、オレオ化学品） • マーケティング力とプライシング力の強化 • リスクマネジメント（為替、地政学） 	<ul style="list-style-type: none"> • マーケティング力・プライシング力強化／一部価格改訂・原料代替取組中 • リスクマネジメント／トランプ関税による影響継続注視

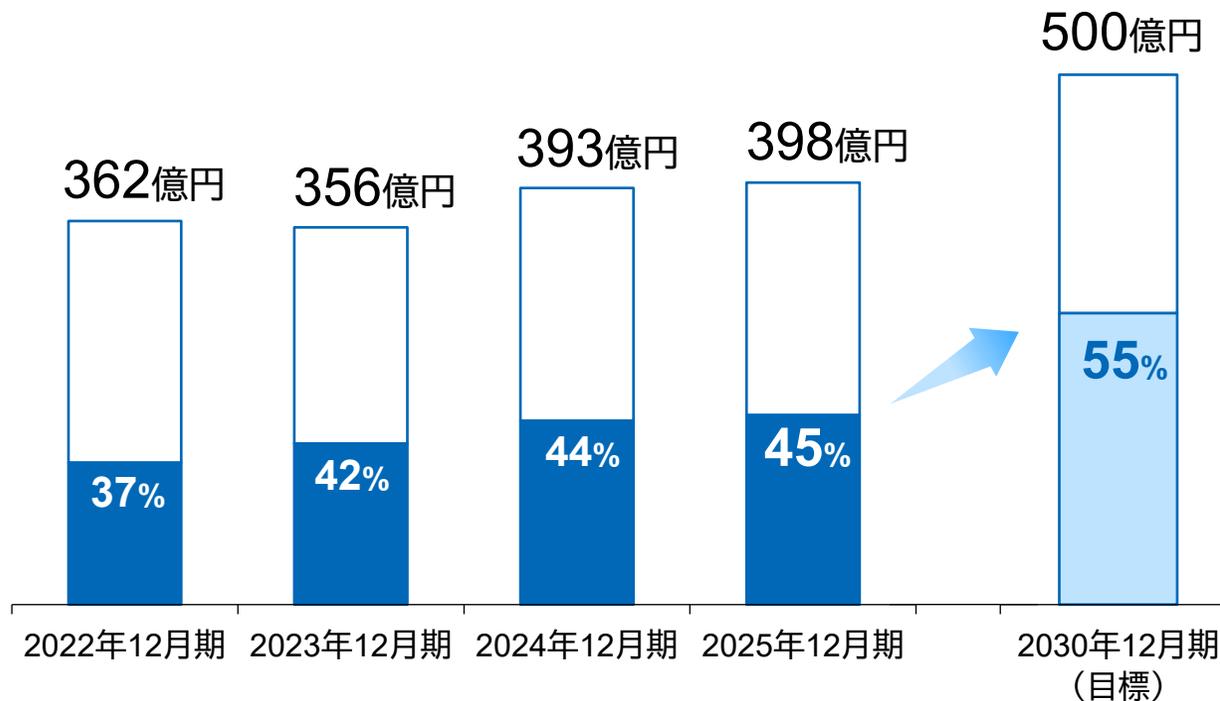
EHDシフトの推進

- 化学品事業はEHD売上高比率の向上余地が大きく、比率が高まれば化学品全体の収益性も高まる
- EHD製品利益率：従来製品比 +11.9%〈25年12月期実績〉

化学品事業における

EHD製品の売上高比率

■ EHD
□ その他





インド(NID) ラボの建設で ニーズに合わせた現地開発を加速

- 現地顧客の使用環境・条件に合わせた製品開発を加速させるため、ラボ(研究施設)を新設
- 中国に次ぐ第2の巨大マーケットにおいて、さらなる販路拡大を目指す

事業進捗

2020年	現地法人(NID)設立
2022年	コロナ渦を経て本格稼働
2024年	本格稼働から2年で黒字化
2025年	更なる成長見込み
2026年1月	新ラボ稼働開始



NICCA INDIA PRIVATE LIMITED (NID)



バングラデシュ 保税倉庫による 安定供給体制の構築とシェア拡大の推進

- 原材料を100%輸入に依存する現地市場に対し、保税倉庫による即納体制を整備
- 輸入手続き等の顧客負担を解消する「原材料の代替提供」を実現し、中長期的なシェア拡大を図る

事業進捗

2023年	保税倉庫建設に着手も、現地の法改正や政変の影響により一時中断
2025年	倉庫建設再開
2026年7月	竣工
2027年1月	営業開始予定



起工式の様子(2025年10月14日)



大阪・関西万博に「ネオクロマト加工®」出展 ポリエステル繊維アップサイクル技術を発信

- 2025年10月5日(日)～7日(火)、大阪・関西万博内 EXPOメッセ「WASSE」にて、日本弁理士会主催「万博で未来を体験しよう」(学生向けビジネス/技術アイデアコンテスト)に出展
- 水を使わずに、ポリエステル繊維を脱色する独自技術「ネオクロマト加工®」の実演プレゼンを実施



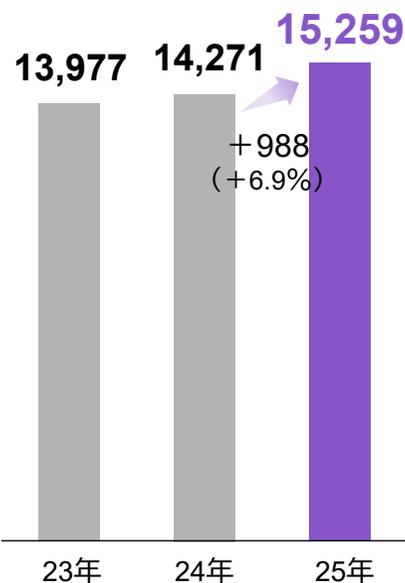
主な成果・反響

- 来場者数:延べ約**1,700名**(学生36チームを含む)
- 学生から「水を使わずに色が抜けてすごい」「再利用の可能性を感じた」など多数の声
- **武藤経済産業大臣が当社ブースを訪問し、環境技術を視察**

- ODM事業好調、注力商品販売堅調で、韓国経済停滞の影響はあるものの、増収・増益
- 下期、累計ともに売上高は過去最高

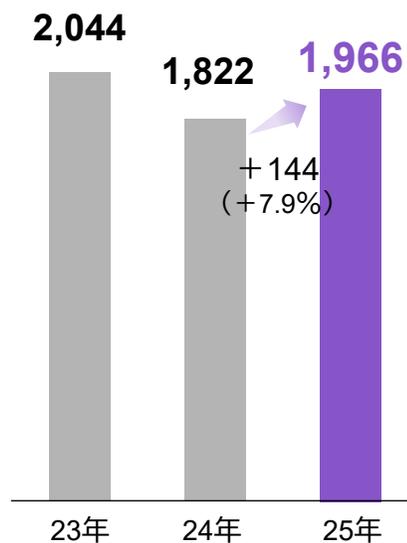
売上高

(百万円)



セグメント利益

(百万円)



為替 ※期中平均 (カッコ内:前年同期比)	米ドル	中国元	ウォン	
	150.42円 (0.7%円高)	(0.5%円高)	(5.0%円高)	
国産ナフサ (カッコ内:前年同期比)	1Q	2Q	3Q	4Q
	73,400円 (+1.2%)	66,300円 (△16.2%)	63,200円 (△17.8%)	65,600円 (△10.4%)

主な増減要因

売上高

日華化学デミ コスメティクス(国内サロン向け)

- + 注力商品販売堅調(フローディアモアが好調)
- 国内美容サロン市場、酷暑や物価高による来店サイクル長期化で来店客数減

山田製薬(国内ODM)

- + ODM事業好調
既存大口ODM受注減も、前年新規ODM(EC専業ヘアケア等)の受注大幅増継続

デミコリア

- + 韓国市場専用ヘアケア販売増
- 韓国経済停滞の影響継続

セグメント利益

- + 売上増に伴う利益増
- 人件費増加

施策	進捗状況／通期
優良サロンの獲得 <ul style="list-style-type: none">・営業人員増強によるサロンサポート強化・DEMI LABOを起点としたユーザー認知と顧客獲得	<ul style="list-style-type: none">・営業人員増員、新規サロン獲得・既存サロン顧客内シェア拡大に向けた活動を強化・オウンドメディア「DEMI LABO」 PV数:193万PV (昨対比: +49.6%)・トライアルEC購入者数:3,100名 (昨対比: +16.8%)
新商品によるサロン内シェアアップ <ul style="list-style-type: none">・新ブランド「サマーバー」、「DEMI DO」追加品	<ul style="list-style-type: none">・ヘアケア／サマーバー 堅調に推移(前年同期ハレマオ比+28%)・DEMI DO 追加品 拡販中
デミコリア／店販を基軸にシェア拡大	<ul style="list-style-type: none">・ヘアケア売上 +14%(韓国経済停滞の中、健闘)
化粧品新工場建設開始	<ul style="list-style-type: none">・予定通り進捗(鉄骨工事・屋根工事完了、外壁・内装工事着工中)



化粧品新工場建設 予定通り進捗

- 名称は「福井スマートファクトリー」に決定
- 2027年の本格稼働に向け、2025年12月に上棟式完了、鉄骨工事・屋根工事完了、外壁・内装工事着工中
- 2025年12月、シンジケートローン契約に基づき30億円借入実施



建設工事の様子(2月9日 時点)

■ 化粧品新工場 概要

- 製造キャパシティ**3倍**
- 自動化による人時生産性**1.5倍**
- CO₂排出削減など**環境対応工場**



イメージパース図

福井スマートファクトリー

本格稼働	2027年	投資規模	約195億円
建設予定地	福井県福井市稲津町・ 荒木新保町 (北陸道福井ICより0.5km)	補助金上限額	49億 9,991万円(補助率1/3)
面積	土地/39,772㎡ 建物/23,000㎡(延床面積)	資金調達	総額140億円の シンジケートローン



当社スカルプケア技術が 令和7年度近畿地方発明表彰「日本弁理士会会長賞」を受賞

- 2025年10月30日、当社と国立研究開発法人理化学研究所による共同発明「育毛効果を有する頭皮頭髪用化粧品」が、高い技術的独創性と社会的貢献度が認められ、「日本弁理士会会長賞」を受賞

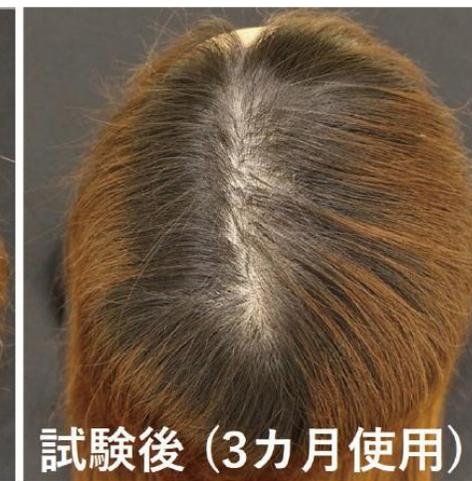
発明の概要

- 植物由来成分を組み合わせ、毛髪の成長を助けるたんぱく質「FGF-7」を増やし、科学的根拠に基づく新しい育毛メカニズムを確立
- 3カ月という短い使用期間でも、抜け毛数の減少や、毛髪1本1本が太くなるという変化が視覚的に明らかに
- 安全性と有効性を両立

育毛作用試験前後の頭頂部写真



試験前



試験後（3カ月使用）

受賞名	日本弁理士会会長賞
受賞発明／特許番号	育毛効果を有する頭皮頭髪用化粧品／特許第7323143号
受賞者	日華化学(株) 毛髪科学研究所 小竹 彩香・新 菜摘・谷口 優子 (株)オーガンテック(元国立研究開発法人 理化学研究所) 辻 孝・小川 美帆



「2025年度QCサークル経営者賞」を受賞

- 2025年11月、現場発の改善をグローバルに育てた取り組みと、地域活動への長年の支援が評価され、当社代表取締役社長 江守康昌が、「2025年度 QCサークル経営者賞」を受賞

授賞式の様子(2025年11月18日)
佐々木理事長より表彰状と楯を授与されました

当社QCサークル活動の歴史

- 1960年代** QCサークル活動を開始
- 1985年** 全社的な推進体制を構築し、業務効率や品質向上に向けた活動を強化
- 2001年** 海外拠点を含めたグループ全体へと改善文化を広げる取り組みを本格的に開始
- 2024年** 「2024年度 QCサークル活動優良企業・事業所表彰」を受賞
- 2025年** 「2025年度 QCサークル経営者賞」を受賞

「QCサークル経営者賞」とは

一般財団法人 日本科学技術連盟がQCサークル(小集団改善活動)の指導や育成に積極的に取り組み、その発展に大きく寄与した経営者を表彰するもの。2000年に内規が定められて以降、現在までに33名の方が受賞





当社ウェブサイト「コア技術」ページリニューアル

- 2026年1月、当社ウェブサイト「コア技術」ページをリニューアル
- 界面科学の知見やメカニズムを基盤とした、5つのコア技術についてご説明しています。是非ご覧ください！

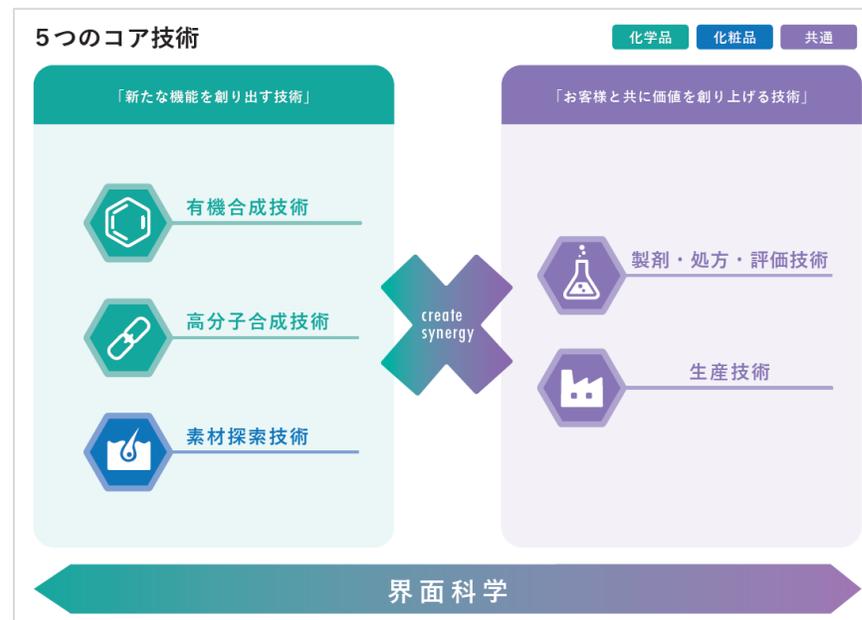
コア技術

技術を、掛け合わせる。可能性を、デザインする。
 ～未来のあたりまえをアップデートする、NICCAの界面科学～

私たち日華化学は、異なる物質の境界である「界面」を科学し、そこに新たな価値や機能を生み出す化学メーカーです。雨を弾いたり、汗をかいてもすぐ乾く衣類で快適に過ごせること。汚れがついてもクリーニングできれいになること。ダメージを抑えながら、自分らしいヘアスタイルを楽しめること。そんな日常の「あたりまえ」の心地よさも、実は「界面」をコントロールする私たちの技術が支えています。



当社の製品は、お客様が求める機能を実現する手段として、「界面科学」の知見やメカニズムを活用しています。そして、その機能を製品としてかたちにするうえで欠かせないのが、「有機合成技術」「高分子合成技術」「素材探索技術」「製剤・処方・評価技術」「生産技術」の5つのコア技術です。



● 詳細はこちらをご覧ください <https://www.nicca.co.jp/corporate/core.html>

※画像はウェブサイトの一部抜粋

連結貸借対照表

(百万円)	2024年12月期 期末	2025年12月期 期末	増減額	
資産	62,366	74,052	+11,686	(主な増減要因) ・ 現金及び預金 +1,122 ・ 建設仮 +10,703 ・ ソフト仮 +516
流動資産	34,221	35,715	+1,493	
固定資産	28,144	38,336	+10,192	
負債	25,812	35,697	+9,885	(主な増減要因) ・ 借入金+8,634
流動負債	17,143	22,983	+5,840	
固定負債	8,668	12,713	+4,044	
純資産	36,553	38,354	+1,800	(主な増減要因) ・ 利益剰余金 +1,460 ・ 退職給付関連 (制度変更影響) △451 ・ 為替換算調整勘定 +325
負債純資産合計	62,366	74,052	+11,686	
自己資本比率	54.0%	47.5%	△6.4pt	
有利子負債	9,902	18,536	8,634	

連結キャッシュフロー

- 営業CF：+55億円(収入) EBITDA 59億円
- 投資CF：△115億円(支出) 固定資産取得による支出119億円
- 財務CF：+73億円(収入) 借入金増84億円、配当金支払9億円

(百万円)	2024年12月期	2025年12月期	増減額
営業CF	6,033	5,542	△491
投資CF	△5,137	△11,539	△6,402
財務CF	△328	7,384	+7,713
期末現預金残高	10,726	11,848	+1,122

02

2026年12月期 通期

業績・配当予想

2026年12月期通期 業績予想の前提

外部環境

- ・ 世界経済は引き続き先行き不透明な状況が続く／各国の政治・通商政策の動向、地政学的リスク、為替相場の変動等
- ・ 国内消費動向も物価や所得環境の影響で不透明な状況が続く



事業への 主な影響

化学品事業

繊維市場

- ・ 主力のアパレル、自動車シート・内装材向けの加工市場は、中国経済や米国の通商政策の動向次第で不透明
- ・ その中でもターゲットのイノベーション領域(新素材切替、環境対応、高付加価値化、資源循環型モデル構築等)は引き続き進展

クリーニング市場

- ・ ホームクリーニングは減少、リネンサプライは国内宿泊者、インバウンド需要が横ばい

電子材料市場

- ・ 生成AI関連・半導体は引き続き需要増。シリコンウェハー出荷面積は横ばい

化粧品事業

- ・ サロンの優勝劣敗が進む
- ・ サロンヘアケアは継続成長
- ・ ODM市場は堅調に推移
- ・ 韓国サロン市場も日本同様

全社

- ・ 物価高、人件費上昇、金利上昇
- ・ 想定レート 為替／米ドル150円、国産ナフサ／65,600円

化学品事業

■ 成長・高収益事業への傾注

- EHDに紐づく新規ビジネス・新規エリアの獲得（EHD売上比率48%）
- グローバル拡販強化
繊維は南西アジア、D領域は東アジア
- デジタル領域のグローバル展開と新規ビジネスの創出

■ 収益性向上

- 戦略的調達によるコストダウン（中国、インド、オレオ化学品）
- マーケティング力とプライシング力の強化
- リスクマネジメント（為替、地政学）

化粧品事業

■ 国内サロン事業

- 主力ブランドの骨太化
- 有力・有望サロンへの浸透力強化

■ 韓国サロン事業

- 店販（ヘアケア）注力
- 店販導線（業務→店販）強化

■ ODM事業

- ビッグアカウント強化

■ 化粧品新工場

- 建屋建設完了
- 工場機能移行時に備えた在庫確保

全社

- 社員エンゲージメント向上
- AIの更なる活用
- 新ERP導入

2026年12月期通期 連結業績予想

- 売上高、各利益ともに過去最高となる見通し

(百万円)	2025年12月期 実績		2026年12月期 予想		増減額	増減率
		構成比		構成比		
売上高	55,705	100.0%	58,500	100.0%	+2,794	+5.0%
■ 化学品事業	39,894	71.6%	41,800	71.5%	+1,905	+4.8%
■ 化粧品事業	15,259	27.4%	15,800	27.0%	+540	+3.5%
その他	550	1.0%	900	1.5%		
営業利益 (営業利益率)	3,847 (6.9%)	-	4,200 (7.2%)	-	+352	+9.2%
■ 化学品事業(セグメント利益)	3,948	65.8%	4,150	65.9%	+201	+5.1%
■ 化粧品事業(セグメント利益)	1,966	32.7%	2,050	32.5%	+83	+4.2%
その他	90	1.5%	100	1.6%		
消去等	△2,158	-	△2,100	-		
経常利益	3,849	-	4,050	-	+200	+5.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,384	-	2,800	-	+415	+17.4%

為替

米ドル
150円

国産ナフサ

65,600円

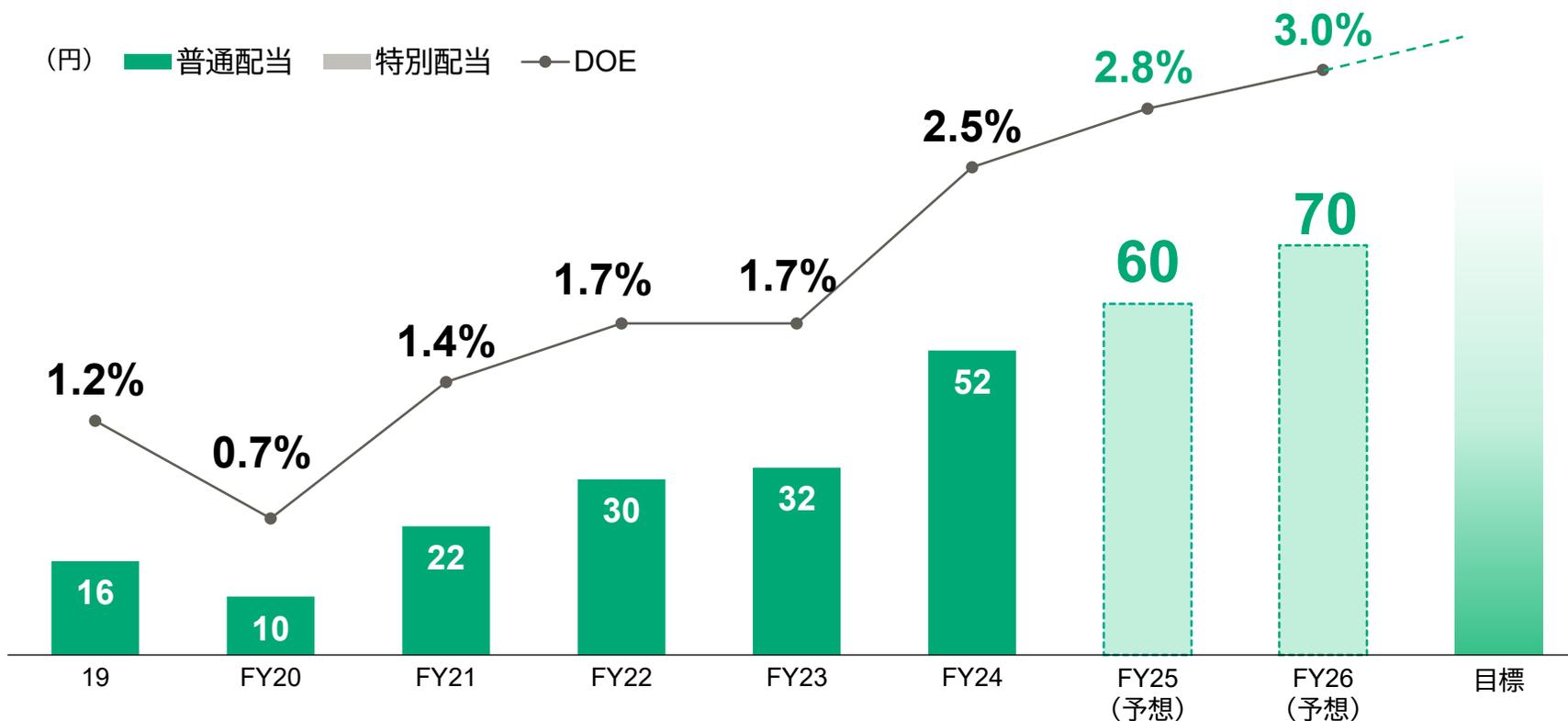
2026年12月期 年間配当予想

- 2026年12月期 年間配当予想は70円(前年比+10円)
- **DOE3.0%(同+0.2ポイント)**で6期連続増配過去最高

配当方針

累進配当 + DOE(自己資本配当率)3.0%を目安として拡充し、その後もDOE向上を継続して検討

配当の状況



03

新中期経営計画

2025年度 業績サマリー

- 「INNOVATION25」最終年度は、**売上高・営業利益ともに過去最高**を更新、各種指標が大きく向上
- ROICは新工場建設開始に伴う固定資産の増加もあり未達、引き続きPBR・ROE向上への取組みが必要と認識

	2022年度 実績	2025年度 実績	INNOVATION25 目標値	
売上高	506億円	557億円	570億円	△ CAGR 3.3%、過去最高
営業利益	26億円	38億円	40億円	○ 未達も大幅増加、過去最高
営業利益率	5.2%	6.9%	7.0%	○ 未達も大幅増加
ROE	8.0%	6.9%	8.0%	△ 税金費用増加により未達
ROIC	4.6%	5.1%	7.0%	△ 先行投資により未達
DOE	1.7%	2.8%	—	○ 大きく上昇、3%を目安に拡充
1株あたり配当金	年間30円	年間60円	—	○ 大幅増加
PBR	0.47倍	0.74倍	—	△ 上昇も1倍未滿
期末株価	830円	1,553円	—	○ 大きく上昇
為替(USD)	132円	150円	132円	円安進行

新中期経営計画「INNOVATION30」(2026～2030年) 戦略骨子

パーパス

Activate Your Life

経営ビジョン

世界中のお客様から
最も信頼される
イノベーションカンパニー

基本戦略

「INNOVATION30」
3大戦略

- 1 事業拡大と成長投資
- 2 財務・資本戦略の強化
- 3 サステナビリティ経営

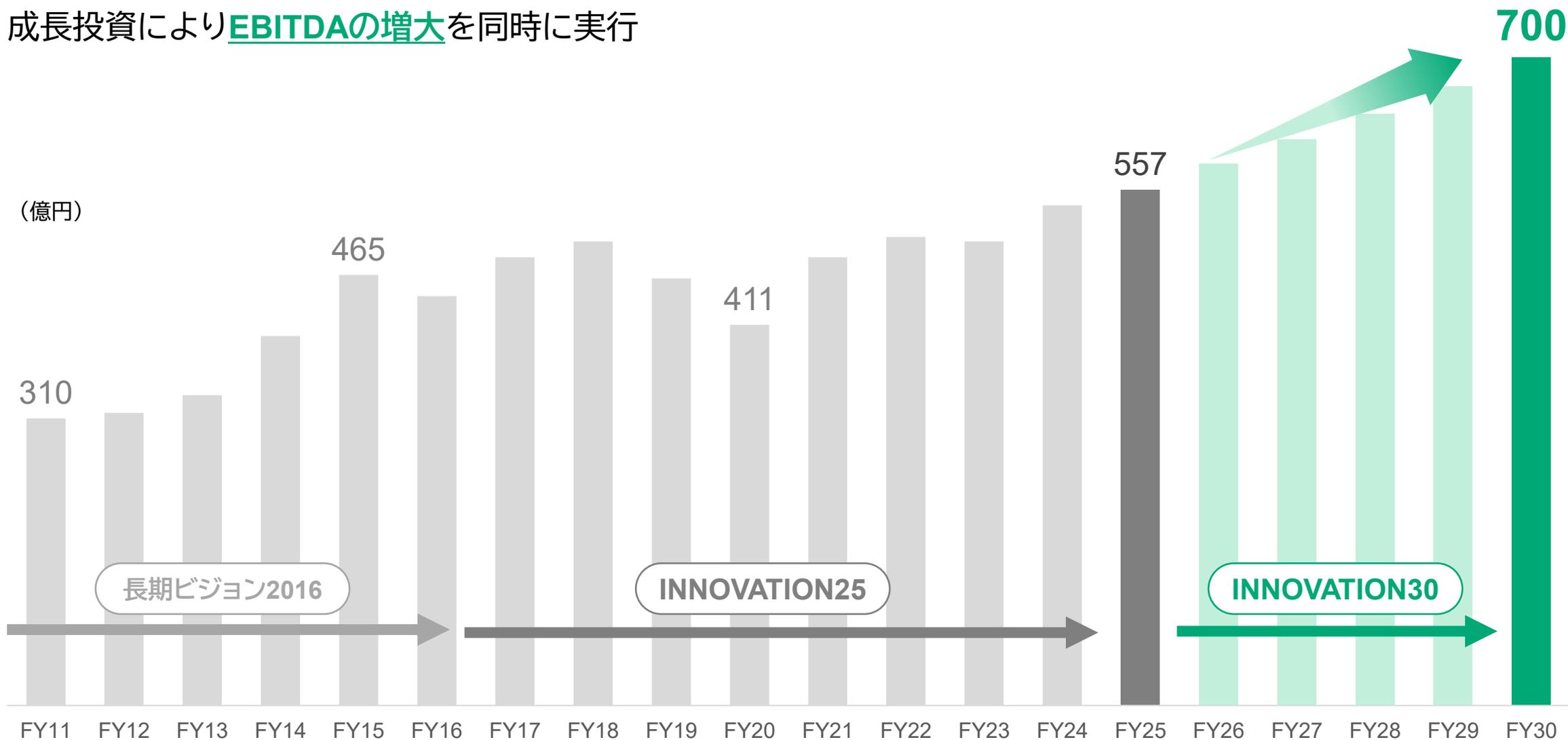
化粧品事業の拡大、化学品EHD領域への傾注

バランスのよいキャッシュフローアロケーションの実行

経営基盤の強化、エンゲージメント向上、CO₂削減

売上高700億円へのチャレンジ

- オーガニックグロースを中心にこれまでに無い飛躍的な成長を目指す
- 成長投資によりEBITDAの増大を同時に実行



新中期経営計画 目標指標

- ・ **事業成長**と**EBITDA**の増大を「INNOVATION30」期間での重点目標とする

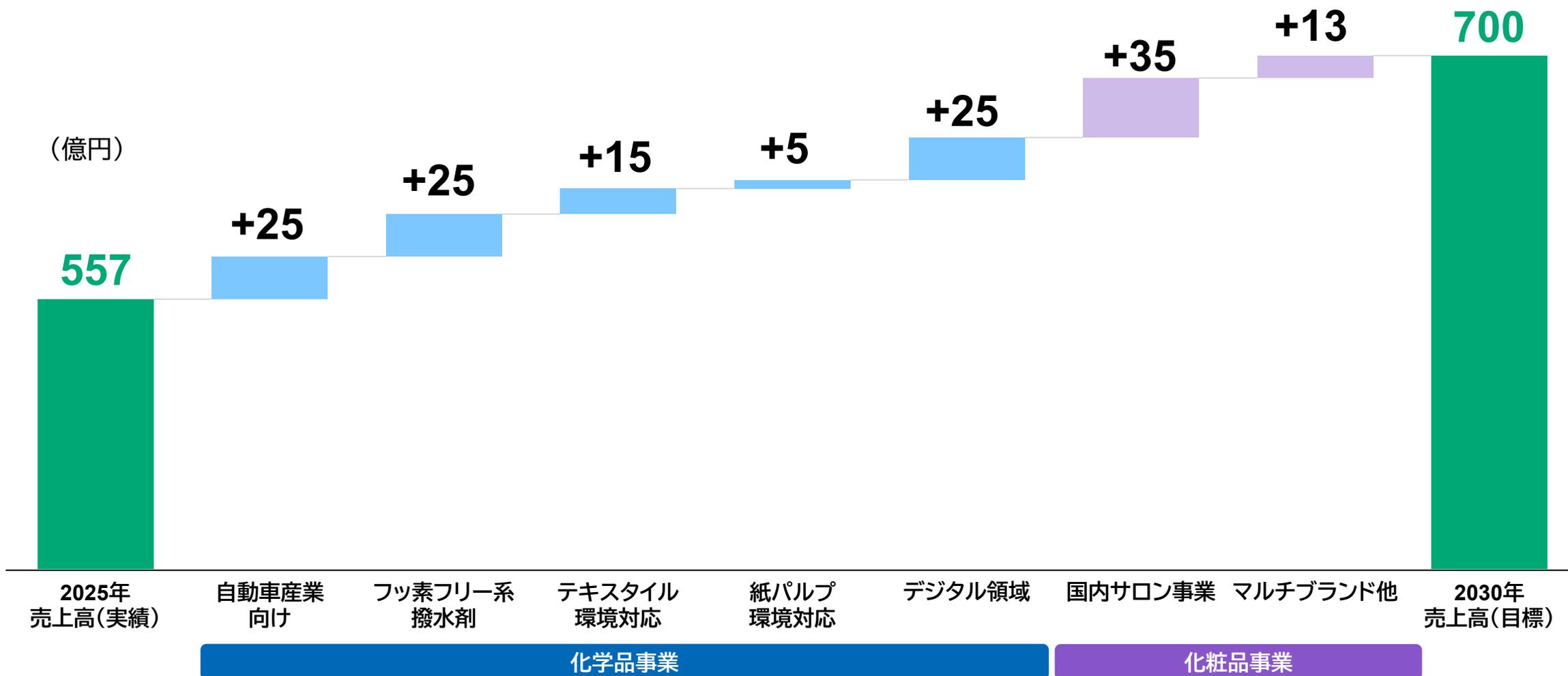
	2025年実績	INNOVATION30 2030年目標	
売上高	557億円	700億円	化粧品、化学品ともに成長
営業利益	38億円	56億円	高付加価値事業へ傾注
営業利益率	6.9%	8.0%	安定的に8%以上へ
EBITDA	59億円	90億円	「稼ぐ力」を成長させる
EBITDA率	10.7%	12.8%	ROS以上の成長
ROE	6.9%	8.0%	株主資本コスト*1を安定的に上回る
ROIC	5.1%	6.0%	WACC*1を安定的に上回る
PBR	0.74倍	1.0倍以上	早期達成を目指す
DOE	2.8%	3.0%以上	3%以上かつ継続的に向上を検討

*1 当社の株主資本コストは約8%、WACCは約6%と推定

*2 想定為替レート(USD):150円 想定国産ナフサ価格:65,600円/KL

売上高700億円に向けて

- 化学品事業: EHD集中戦略を加速、特に環境、デジタル領域での新たな市場獲得へ
- 化粧品事業: 国内サロン事業のシェアアップに加え、ODM事業や海外での事業拡大へ



04

Appendix

財務データ等推移

(百万円)

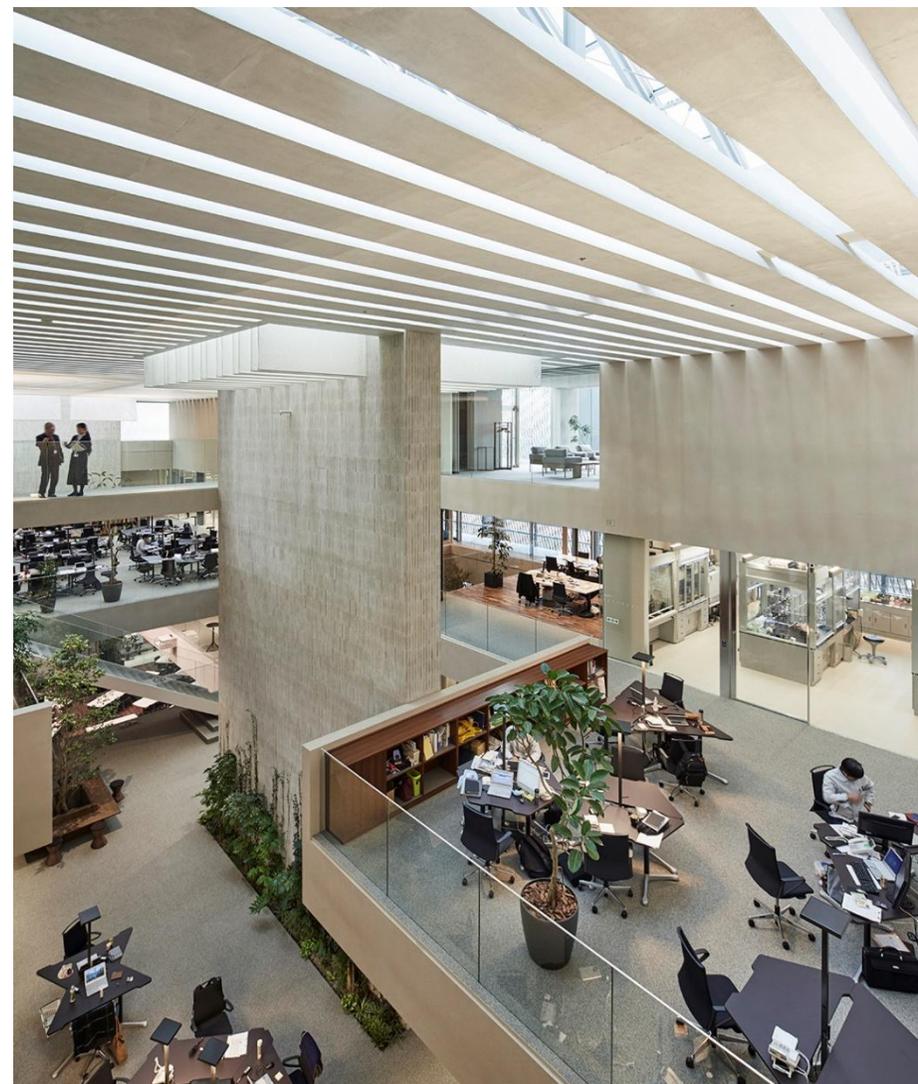
項目	2016年12月期	2017年12月期	2018年12月期	2019年12月期	2020年12月期	2021年12月期	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期
売上高	44,222	48,493	50,188	46,191	41,179	48,474	50,627	50,169	54,099	55,705
EBITDA のれん償却額反映	3,174	4,056	4,292	3,635	4,187	4,953	5,045	4,308	5,743	5,975
(EBITDA率)	7.2%	8.4%	8.6%	7.9%	10.2%	10.2%	10.0%	8.6%	10.6%	10.7%
減価償却費 のれん償却額含む	1,716	1,940	1,991	2,240	2,771	2,500	2,417	2,269	2,224	2,128
営業利益	1,458	2,116	2,301	1,395	1,416	2,453	2,628	2,039	3,519	3,847
(営業利益率)	3.3%	4.4%	4.6%	3.0%	3.4%	5.1%	5.2%	4.1%	6.5%	6.9%
経常利益	1,588	2,171	2,430	1,334	1,645	2,706	3,132	2,528	3,976	3,849
親会社株主に帰属する当期純利益	346	1,388	2,458	900	1,044	2,595	2,114	1,691	2,754	2,384
1株当り当期純利益(円)	22.09	88.48	156.68	57.33	66.40	164.82	134.08	107.09	174.17	150.28
配当金(円)	20	16	18	16	10	22	30	32	52	60
自己資本比率	33.3%	34.4%	35.6%	36.7%	39.5%	45.9%	49.8%	52.9%	54.0%	47.5%
ROE	2.0%	7.8%	12.6%	4.5%	5.1%	11.3%	8.0%	5.8%	8.6%	6.9%
ROA	2.9%	4.0%	4.1%	2.5%	2.6%	4.4%	4.8%	3.6%	5.9%	5.6%
研究開発費	2,035	2,065	2,219	2,289	2,019	2,166	2,250	2,296	2,551	2,732
従業員数(人)	1,418	1,472	1,479	1,496	1,500	1,454	1,472	1,500	1,531	1,576

※ 2025年12月期年間配当金のうち期末配当30円については2026年3月26日開催の定時株主総会で決議予定

※ は「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準 第29号)等適用によりそれ以前とは基準が異なる項目

会社概要

商号	日華化学株式会社(証券コード 4463)
本社	福井県福井市文京4丁目23-1
創立	1941(昭和16)年9月15日
資本金	28億9,854万円
発行済株式数	1,771万株
決算期	12月31日
従業員数	連結／1,576名 単体／628名(2025年12月31日現在)
事業内容	繊維を主とする各種産業用界面活性剤 および化学品、化粧品等の製造・販売
上場証券取引所	東証スタンダード、名証プレミア



数字で知る日華化学

創立(1941年9月15日)

84年

SINCE 1941

本社/福井県福井市

売上高(2025年12月期)

557億円



前期比/3.0%UP

営業利益(2025年12月期)

38億円



前期比/9.3%UP

共同研究機関数
(2024年12月末時点)

43機関



グローバル

従業員数(2025年末時点)

1,576名



単体/628名

海外拠点数(2025年末時点)

9つの国と地域



15拠点

工場・研究所含む

海外売上高比率
(2025年12月期)

48%



グローバル企業

配当+株主優待利回り
(2025年末時点)

4.51%



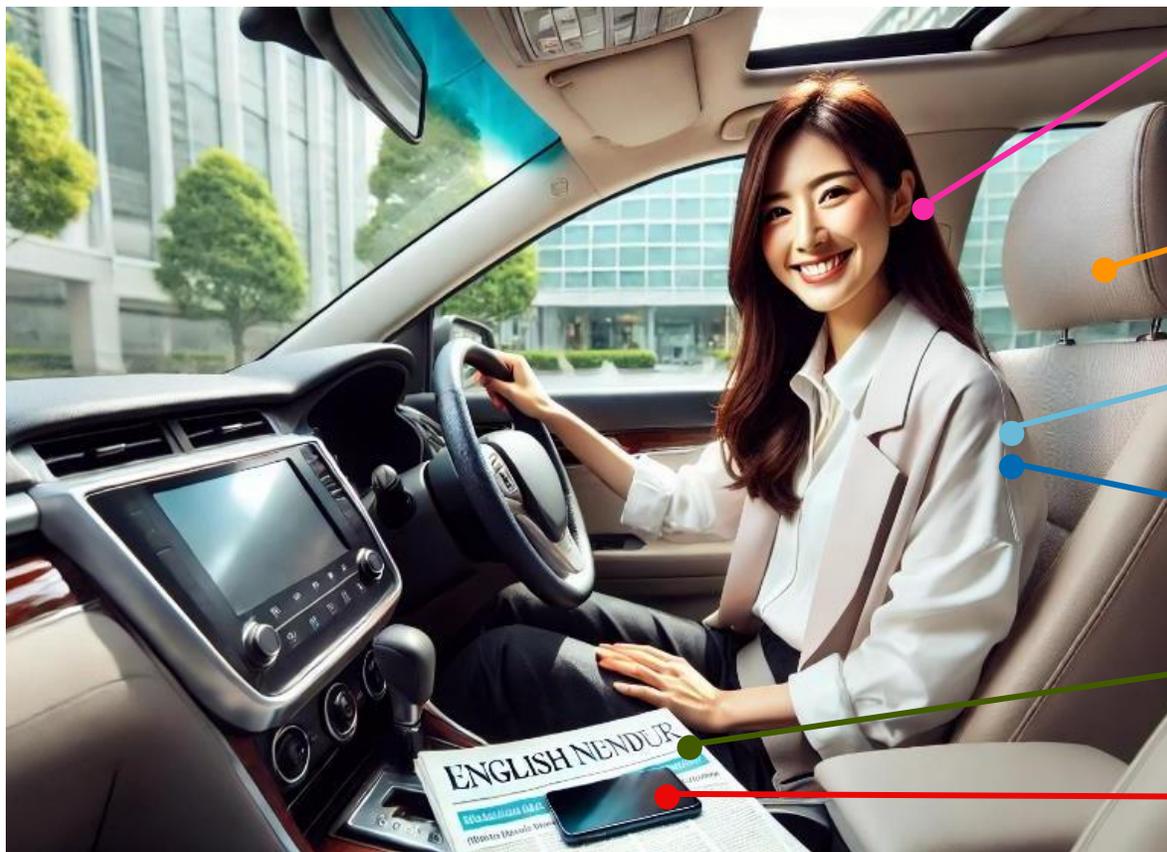
500株保有の場合



＝ 様々なモノとモノの境界面を
“アクティベート(活性化する)” 技術 で、
人々の暮らしや社会を輝かせる会社



\ココにもソコにも！/ 実は身近な**日華化学**の技術！



化粧品事業



ヘアケア剤、カラー剤
スタイリング剤など

化学品事業



カーシートの難燃剤・防汚剤など



衣類の撥水剤、
吸水速乾剤、抗菌消臭剤など



クリーニング用洗剤・柔軟剤など



新聞紙等の脱墨剤など

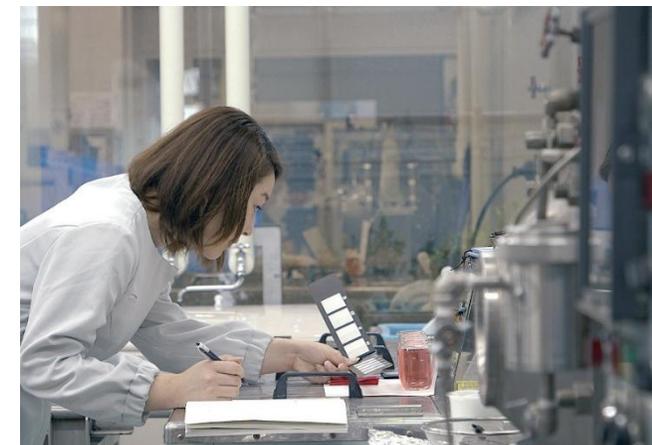


デジタルデバイスの
潤滑材・防汚剤など

企業理念

「製品を売るにあらずして技術を売る」

NICCA イノベーションセンター(研究開発拠点)を中心に、
ビジネスパートナーとの距離を縮め、新しい製品と事業の創出を加速させています

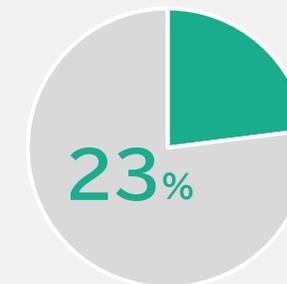


✓ **4人に1人** が、研究開発に従事！

<研究開発人員比率>

当社単体 23%、国内製造業平均* 8%

*当社調べ(国内製造業における当社と同規模企業の平均値)





目には見えないけれど、あなたの毎日を支える技術で、
国内シェアNO.1・世界トップクラスの製品を多数展開

01

繊維 関連の化学品

工程薬剤

洗う・染める工程等で使用する薬剤



SMART
DYEING
PROCESS

- ✓ 環境負荷低減(節水・省エネ)
- ✓ 生産効率向上(時短)
- ✓ 作業環境改善 に貢献

仕上げ剤

付加価値を加える薬剤



撥水剤・消臭剤



防炎剤・抗菌剤



防汚剤・難燃剤 など

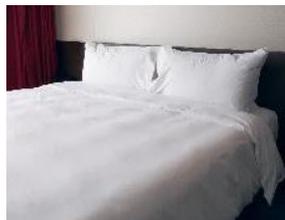
02

クリーニング・医療 関連の化学品

クリーニング用薬剤



ホテルリネン用薬剤



手術器具の洗浄剤 など

03

スペシャリティケミカル

*グループ会社:大智化学産業(株)

半導体用薬剤



新聞紙等の脱墨剤



感熱紙用薬剤 など

日華化学について(化学品事業)

高機能

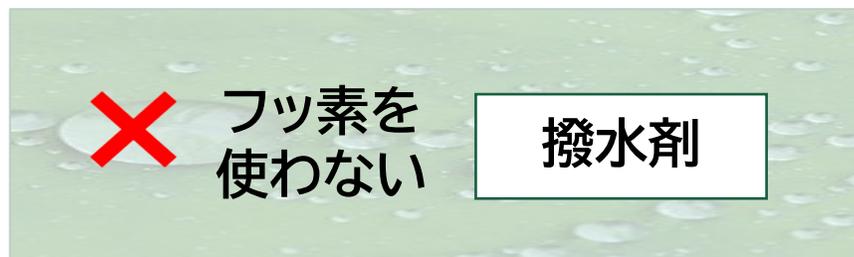


サステナブル

な製品開発で世界をリード

経済産業省「2020年版グローバルニッチトップ企業100選」にも選出

(製品例)



「2020 R&D100 AWARDS」受賞

R&D
100
AWARDS



世界的大手メーカーに多数採用
(アパレル/自動車/半導体など)





絹を綺麗に洗う・ウールを痛めずに染める技術を毛髪に応用(1981年～)

研究開発型企业として、業界で確固たる地位を確立

01

DEMI

EraL

美容室専売品 (2つの自社ブランド)

*グループ会社:イーラル(株)

施術品

美容師さんが施術で使う業務用の商品



- ・ヘアケア剤
- ・スカルプケア剤
- ・スタイリング剤
- ・カラー剤 ・パーマ剤 など

店販品

美容室で来客者に販売する商品



- ・ヘアケア剤
- ・スカルプケア剤
- ・スタイリング剤 など

02

ODM・OEM

*グループ会社:山田製薬(株)

相手先ブランドの
受託開発・受託生産



「髪を科学する」～頭皮と髪健康と美しさを科学で進化させる～

【強み】“レシピの開発力”

- ✓ **毛髪科学**による高い研究開発力
- ✓ 国内有数の研究機関・大学との**共同研究**
- ✓ 髪の特化専門家 **美容師との連携**

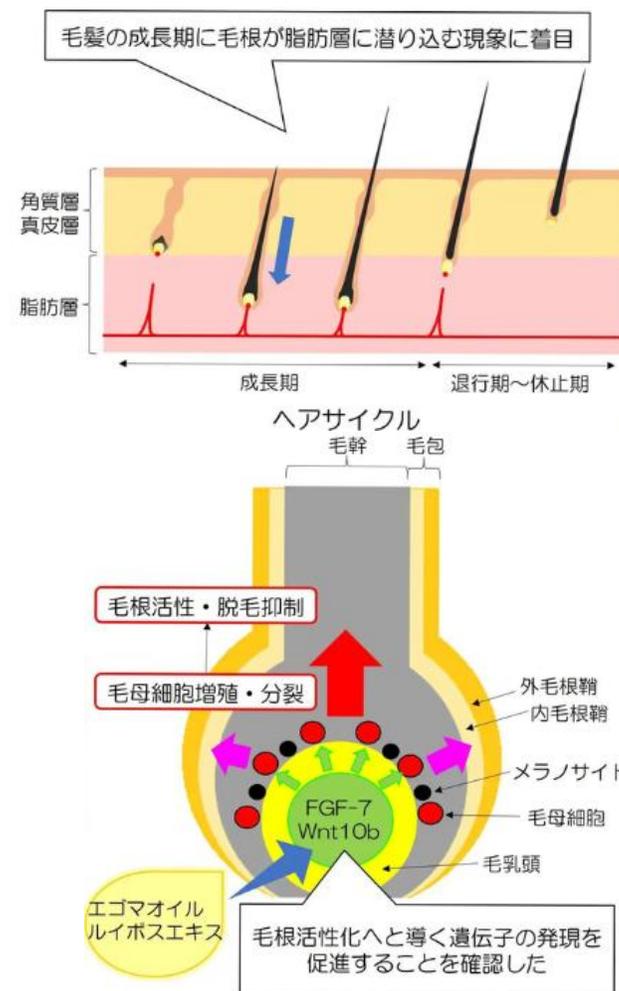


3,000 以上のレシピを保有

一人ひとり異なる
毛髪の悩みに
応える商品群

豊富なレシピで
取引先のニーズを
具現化(ODM)

お客様からの
高いリピート率



日華化学について(グローバル展開)



繊維産業はグローバルの人口増加に合わせて**需要拡大**

1968年からアジア諸国を中心に積極的なグローバル展開し、成長する海外市場にいち早く参入

海外拠点数

アジアを中心に、
9つの国と地域に

15 拠点

(工場・研究所含む)

海外売上高比率

全体売上高の

48%

(2025年度実績)



【強み・模倣困難ポイント】



×



×



+



現地開発・現地生産・現地販売

各拠点の連携



**『顧客現場発イノベーション』を
海外でも同様に実践**

当社の強み「顧客現場発イノベーション」
については、こちらよりご覧いただけます→



輝け、カガクで。

Activate Your Life

お問い合わせ先

日華化学株式会社 IR担当

 (0776)25-8584(直通)

 ir@niccachemical.com

この資料には、2026年2月13日時点の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。

経済情勢の変動などに伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。